

## 授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。</li> <li>・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。</li> <li>・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	講師紹介 1-1 これからどう生きるのか(宿題として視聴)		
	2	就職活動の心構え身だしなみ	1-1宿題振り返り 1-2 一生でどのくらい稼げるのか		
	3	就職活動での身だしなみ	5-1~5-1(実践編) 身だしなみ		
	4	就職活動の流れ	学校でのルールと大学生、高校生、専門学校生の違い		
	5	職業を知る	2-2 職種と業種の違いが分かるように *志望動機は飛ばします		
	6	情報収集、企業研究、資料請求 1	2-2(実践編) 業界マップの理解		
	7	情報収集、企業研究、資料請求 2	2-3 業界ごとに必要な仕事内容を理解する		
	8	情報収集、企業研究、資料請求 3	2-3(実践編) 業界ごとに必要な仕事内容を理解する		
	9	自分自身を知る 自分史の作成 1	3-4から3-6-2 ・3-4自己PRのネタを探す		
	10	自分自身を知る 自分史の作成 2	3-4から3-6-2 ・3-4-1自己PRのネタを探す(経験)		
	11	自分自身を知る 自分史の作成 3	3-4から3-6-2 ・3-4-2自己PRのネタを探す(特性)		
	12	自分自身を知る 自分史の作成 4	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る		
	13	自分自身を知る 自分史の作成 5	3-4から3-6-2 ・3-5自己PRの骨格を作る(実践編)		
	14	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など		
	15	期末試験(一般常識)	自己PRの確認は必須 時間があれば一般常識など		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動をする心構えの習得と実準備ができる事を目標とする。</li> <li>・前期では、一般常識について学び、習得する事を目標達成ポイントとする。</li> <li>・後期では、履歴書作成を目標達成ポイントとする。</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画  後期	16	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り		
	17	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り		
	18	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート		
	19	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状		
	20	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書		
	21	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成		
	22	企業訪問	5-1,5-2		
	23	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室		
	24	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1		
	25	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2		
	26	筆記試験対策 1	5-5,5-5(実践編) 筆記試験について、種類や方法を知る		
	27	筆記試験対策 2	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)		
	28	筆記試験対策 3	特に小論文の書き方(内容は自己PRや志望動機をまとめる内容がよい)		
	29	期末試験(履歴書)	履歴書提出		
30	期末試験(履歴書)	履歴書提出			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論Ⅱ			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生		
授業方法	講義: ○	演習:	実習:	実技:	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。</li> <li>・前期は、一般常識を強化</li> <li>・後期は、個別指導を強化</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業計画 前期	1	一般常識1	国語 1 漢字の読み書き		
	2	一般常識2	国語 2 対義語・類義語 3 同音異義語・同訓異字		
	3	一般常識3	国語 4 四字熟語 5 故事成語・ことわざ・慣用句		
	4	一般常識4	社会 1 日本史 2 世界史		
	5	一般常識5	社会 3 日本の地理 4 世界の地理		
	6	一般常識6	社会 5 民主政治 6 経済		
	7	小テスト	中学レベル小テスト		
	8	一般常識7	英語 1 英単語・英熟語 2 英文法1 3 英文法2		
	9	一般常識8	英語 4 英文法3 5 会話表現・慣用表現		
	10	一般常識9	数学 1 重要基礎1 2 重要基礎2 3 式と計算		
	11	一般常識10	数学 4 方程式と不等式 5 図形と面積、体積 6 場合の数と確率		
	12	一般常識11	理科 1 物理・化学 2 生物・地学		
	13	一般常識12	文化・芸術・雑学		
	14	期末テスト	一般常識総ざらい		
	15	期末テスト	一般常識総ざらい		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	進路研究論Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生		
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
年間時間数	30時間	単位数	2単位	週時間数	1時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動での面接、書類突破する事を目標とする。</li> <li>・前期は、一般常識を強化</li> <li>・後期は、個別指導を強化</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	SUCCESS				
授業外学習の方法	教科書復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  後 期	16	志望動機の作り方 1	3-7 業界、会社にあった動機作り		
	17	志望動機の作り方 2	3-7(実践編) 業界、会社にあった動機作り		
	18	制作書類 1	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2エントリーシート		
	19	制作書類 2	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2封筒の書き方、添え状		
	20	制作書類 3	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2その他の書類、履歴書		
	21	制作書類 4	3-8・3-8(実践編)、3-1~3-3(実践編)、3-6~3-6-2履歴書の完成		
	22	就職試験のマナー 1	5-2~5-3(実践編) 入退室		
	23	就職試験のマナー 2	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策1		
	24	就職試験のマナー 3	5-2~5-3(実践編) 面接試験対策2		
	25	個別指導1	書類添削、面接指導		
	26	個別指導2	書類添削、面接指導		
	27	個別指導3	書類添削、面接指導		
	28	個別指導4	書類添削、面接指導		
	29	個別指導5	書類添削、面接指導		
30	個別指導5	書類添削、面接指導			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</li> <li>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	14	期末試験	期末試験
	15	期末試験	期末試験
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習 I		指導担当者名	常勤
実務経験	無			
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 1年生	
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位	週時間数 2時間
学習到達目標	<p>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</p> <p>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</p>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	ゼミごとに異なる			
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授 業 計 画  後 期	16	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。	
	17	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。	
	18	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。	
	19	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。	
	20	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。	
	21	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。	
	22	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。	
	23	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。	
	24	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。	
	25	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。	
	26	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。	
	27	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。	
	28	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り	
	29	期末試験	期末試験	
30	期末試験	期末試験		
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ナレーション演習		指導担当者名	宗方和子	
実務経験	有	10年以上、司会業、ナレーターとして従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	6単位	週時間数	3時間
学習到達目標	発音・発声・滑舌を常に意識し、明瞭な音声を確立させるとともに、表現の幅を広げ声量をアップさせることを目指します。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ナレーションテキスト、筆記用具、ストップウォッチ 等				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	ナレーションとは・授業の進め方	学生・講師自己紹介・教材について		
	2	発声の仕組み・器官の名称	声帯の図面を見ながら音声化されるまでの確認		
	3	喉声から腹式呼吸へ	全身を使って声を出す実習・風船を使用		
	4	五十音の口の形のチェック	鏡を使って口形の確認・音量アップ		
	5	行の文章を正確に声で表現	ナレーション教本を使用		
	6	ナレーション専門用語を知る	前期試験に出題の専門用語をチェック		
	7	曖昧な音声を克服するために	個々に短文ナレーション発表・録音し弱点を発見		
	8	告知ナレーション表現	伝える内容と声が合っているかを互いに意見を出す		
	9	実際のプロのナレーションを聞く	音声データを聞き、自分の表現との差を記録		
	10	プロとの差を埋めるためには	どんな訓練が必要かを明らかにし夏休みの課題とする		
	11	コマーシャルナレーション	ナレーション教本・実際のCMナレーション原稿表現		
	12	紀行もののナレーション	ナレーション教本・情緒を表現できるか		
	13	番組や映画の番宣ナレーション	ナレーション教本・録音		
	14	前期試験(筆記・実技)	ナレーション専門用語・ナレーション表現		
	15	前期試験の振り返り	個々に課題の明確化・後期目標設定		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ナレーション演習		指導担当者名	宗方和子	
実務経験	有	10年以上、司会業、ナレーターとして従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	6単位	週時間数	3時間
学習到達目標	発音・発声・滑舌を常に意識し、明瞭な音声を確立させるとともに、表現の幅を広げ声量をアップさせることを目指します。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ナレーションテキスト、筆記用具、ストップウォッチ 等				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	夏休みの個々の課題の達成度確認	個々に発表し講師が達成度と更なる課題の明確化		
	17	商品のコマーシャル原稿作成	ライターが苦心を重ねて紡ぐ文章を体感する		
	18	作成した原稿の音声化	イメージと合致したか?(例:商品が欲しくなったか?)		
	19	複数人でのコマーシャル	息を合わせて一つの作品を表現する		
	20	ニュアンスまで表現するには	溜息や泣きながら・含み笑いなどの工夫		
	21	ディレクターのオーダーへの対応	明るく・優しく・しつとりと・激しく・儂く等		
	22	ドキュメンタリー番組のナレーション	ナレーション教本・実際の番組に使用された原稿		
	23	幼児教育教材用のナレーション	ナレーション教本・実際の番組に使用された原稿		
	24	ホラー映画のナレーション	ナレーション教本・録音		
	25	ラブロマンス映画告知	ナレーション教本・録音		
	26	滑舌・発音・アクセント等の最終確認	録音・講師と学生との意見交換		
	27	県政トピックスナレーション	テレビで放送用に使用した原稿の表現		
	28	五感を研ぎ澄ます技術アップ	日本語に敏感になるためどんな本を読んだらいいか		
	29	後期試験(実技のみ)	ナレーション3パターン音声表現		
30	後期試験の振り返り	1年間の達成度・課題のチェック			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</li> <li>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	2	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	3	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	4	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	5	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	6	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	7	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	8	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	9	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	10	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	11	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	12	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	13	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	14	期末試験	期末試験
	15	期末試験	期末試験
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	クロスオーバー演習Ⅱ	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	通年	対象学科学年	全学科 2年生
授業方法	講義:	演習: ○	実習: 実技:
年間時間数	60時間	単位数	4単位 週時間数 2時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特徴でもある複数分野の授業を横断的に学習し、視野を広げ見地を高める。</li> <li>・授業内における複数のカリキュラムメニューから自身の興味関心のあるものを選び学習をすることで無理なく学びにつなげることができ、自身の可能性と得意分野を広げていく。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	ゼミごとに異なる		
授業外学習の方法	ゼミごとに異なる		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	16	オリエンテーション	授業の目的、使用教材についての理解、各担当講師から授業内容について説明。授業選択。
	17	選択基礎1	選択授業の基礎を学ぶ。
	18	選択基礎2	選択授業の基礎を学ぶ。
	19	選択基礎3	選択授業の基礎を学ぶ。
	20	選択基礎4	選択授業の基礎を学ぶ。
	21	選択基礎5	選択授業の基礎を学ぶ。
	22	選択基礎6	選択授業の基礎を学ぶ。
	23	選択基礎7	選択授業の基礎を学ぶ。
	24	選択基礎8	選択授業の基礎を学ぶ。
	25	選択基礎9	選択授業の基礎を学ぶ。
	26	選択基礎10	選択授業の基礎を学ぶ。
	27	選択基礎11	選択授業の基礎を学ぶ。
	28	選択基礎12	期末試験範囲発表、期末試験範囲振り返り
	29	期末試験	期末試験
30	期末試験	期末試験	
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ボイストレーニング実習 I		指導担当者名	山家ちあき	
実務経験	有	ボイストレーナー業に6年以上従事			
開講時期	通年		対象学科学年	声優科1年	
授業方法	講義:		演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>身体を楽器として扱うための基礎構築を目的とする。腹式呼吸のメカニズムを理解し、喉に負担をかけない安定した呼気と発声法を体得する。正確な口形による母音の構えと、明瞭な子音の調音技術を習得し、五十音すべてを標準的なアクセントとイントネーションで発音できる状態を目指す。また、正しい姿勢と発声に基づき、課題曲の音程とリズムを正確に捉えて歌唱できる基礎的な身体能力を養う。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	電子ピアノ、マイク、マイクケーブル、譜面、台本 等				
授業外学習の方法	ブレスコントロール(腹式呼吸トレーニング) / 発声基礎練習 / 『外郎売り』(滑舌・鼻濁音・無声化の確認)				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  前 期	1	オリエンテーション	授業の流れ、注意事項、自己紹介、目標達成シート記入		
	2	呼吸の基礎	腹式呼吸のメカニズム、インナーマッスルの意識		
	3	音の伝達	骨導音と気導音の違いについて(自分の声を知る)		
	4	共鳴の基礎①	口腔共鳴:口の中の空間を広げ、明るい響きを作る		
	5	共鳴の基礎②	咽頭共鳴:喉の奥を響かせ、深みのある声を作る		
	6	音程制御	ピッチコントロール:正確な音程をとるトレーニング		
	7	音域拡大①	高音の出し方:頭声(ヘッドボイス)への切り替え		
	8	音域拡大②	低音の出し方:胸声(チェストボイス)の安定		
	9	リズムトレーニング	楽曲を用いたリズムの取り方、グルーブ感の習得		
	10	歌唱表現①	楽曲A:フレーズごとの息継ぎと感情表現		
	11	歌唱表現②	楽曲A:フルコーラス歌唱(録音とフィードバック)		
	12	歌唱表現③	楽曲B:異なるジャンルでのリズム・声色の使い分け		
	13	歌唱表現④	楽曲B:フルコーラス歌唱(パフォーマンスの完成)		
	14	上期総括	テストに向けた最終調整、苦手箇所の個別フォロー		
	15	上期試験	実技テスト:課題曲または外郎売り + 夏季課題配布		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ボイストレーニング実習 I		指導担当者名	山家ちあき	
実務経験	有	ボイストレーナー業に6年以上従事			
開講時期	通年		対象学科学年	声優科1年	
授業方法	講義:		演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>身体を楽器として扱うための基礎構築を目的とする。腹式呼吸のメカニズムを理解し、喉に負担をかけない安定した呼気と発声を体得する。正確な口形による母音の構えと、明瞭な子音の調音技術を習得し、五十音すべてを標準的なアクセントとイントネーションで発音できる状態を目指す。また、正しい姿勢と発声に基づき、課題曲の音程とリズムを正確に捉えて歌唱できる基礎的な身体能力を養う。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	電子ピアノ、マイク、マイクケーブル、譜面、台本 等				
授業外学習の方法	ブレスコントロール(腹式呼吸トレーニング) / 発声基礎練習 / 『外郎売り』(滑舌・鼻濁音・無声化の確認)				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  後 期	16	下期ガイダンス	後半目標設定、呼吸コントロールの再確認(応用編)		
	17	自己分析	自分の苦手な行(サ行、タ行など)を理解し、改善法を学ぶ		
	18	アナウンス基礎①	正確に読む:アクセントと鼻濁音の徹底		
	19	アナウンス基礎②	明瞭に読む:滑舌を極め、聞き取りやすい声を作る		
	20	外郎売り(深掘り)	緩急・間の取り方・プロの語りを目指す		
	21	表現技法①	プロミネンス(強調):伝えたい言葉を際立たせる技術		
	22	台詞チェック①	課題台本の読解、状況設定の確認		
	23	台詞チェック②	キャラクターの肉付け:履歴書作成と声のトーン設定		
	24	キャラ表現①	感情の乗せ方:怒り・悲しみ・喜びのブレスコントロール		
	25	キャラ表現②	距離感の意識:マイクとの距離や空間を意識した発声		
	26	模擬オーディション①	ボイスサンプルの作成、自己PRの構成		
	27	模擬オーディション②	原稿読み(初見)への対応力を養う		
	28	総合演習①	課題台本のブラッシュアップ(演技・アナウンス選択可)		
	29	総合演習②	最終テストに向けたリハーサルと相互評価		
30	修了試験	実技テスト:課題台本、ボイスサン、外郎売、模擬ADより選択			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	セルフプロデュース実習			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>声優・俳優・VTuberとして活動するために不可欠な「表現技術」と「自己プロデュース能力」の両立を目指します。基礎発声や歌唱、演技などの確かな実技力を磨くと同時に、徹底した業界研究と自己分析を通じて自身の強みを明確化します。最終的には、戦略的なプロフィールシートとボイスサンプルを完成させ、自らの価値を客観的に把握し、厳しい業界で「選ばれ続ける」ための実践的な生存戦略を習得します。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	筆記用具、パソコンなど				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	講義の目的、現代の表現者を取り巻く環境、目標設定		
	2	セルフプロデュース概論	「商品」としての自分を俯瞰する。才能と市場価値の違い		
	3	業界研究: 声優編	アニメ、吹き替え、ナレーション、ゲームの市場構造と潮流		
	4	業界研究: 俳優編	舞台、映像、広告。それぞれのキャスティングの流れ		
	5	業界研究: VTuber編	企業勢と個人勢、メタバース市場、配信文化の独自性		
	6	事務所・エージェント研究	大手・中堅・新興事務所のカラー比較。自分に合う場所とは？		
	7	自己分析: SWOT分析	強み(S)、弱み(W)、機会(O)、脅威(T)を書き出す		
	8	キャラクター・マッピング	業界内での立ち位置(ポジション)の特定。競合は誰か？		
	9	USP(独自の強み)の抽出	「あなたにしか頼めないこと」を言語化する		
	10	マインドセットと生存戦略	メンタルヘルスと、業界で生き残るための「思考の癖」		
	11	ビジネスモデルの理解	ギャラ、ロイヤリティ、二次利用、物販など収益の流れを知る		
	12	デジタル・フットプリント	SNS運用の現状把握。過去の投稿が未来を左右するリスク管理		
	13	セルフブランディング基礎	視覚的・聴覚的イメージの一貫性。色の心理学と声の印象		
	14	上期振り返り・個別面談	自己分析の結果を共有し、ブラッシュアップする		
	15	中間プレゼン	「1分間セルフプロモーション」: 自分の売り出し方針を発表		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	セルフプロデュース実習			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>声優・俳優・VTuberとして活動するために不可欠な「表現技術」と「自己プロデュース能力」の両立を目指します。基礎発声や歌唱、演技などの確かな実技力を磨くと同時に、徹底した業界研究と自己分析を通じて自身の強みを明確化します。最終的には、戦略的なプロフィールシートとボイスサンプルを完成させ、自らの価値を客観的に把握し、厳しい業界で「選ばれ続ける」ための実践的な生存戦略を習得します。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	筆記用具、パソコンなど				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  後 期	16	ビジュアルプロデュース	宣材写真、アバター、衣装。プロフィールシートに載せる「正解」		
	17	プロフィールシート作成①	基本情報の整理、目を引くキャッチコピーの作成		
	18	ボイスサンプル分析①	現状のサンプルの聞き返し。足りない要素の洗い出し		
	19	ボイスサンプル分析②	戦略的台本選定。プロフィールシートと連動した構成案		
	20	SNS戦略:X・TikTok・YouTube	プラットフォーム別の発信内容とプロフィールシートへの誘導		
	21	コミュニティ形成術	ファンとの距離感、エンゲージメントの高め方、炎上対策		
	22	プロフィールシート作成②	オーディションに通る経歴・特技の書き方。備考欄の活用術		
	23	オーディション対策①	面接での立ち振る舞い、質疑応答のシミュレーション		
	24	オーディション対策②	動画審査(宅録・自撮り)のクオリティアップ術		
	25	ネットワークキングの極意	媚びを売るのではなく「仕事がしやすい人」になる技術		
	26	コンテンツ制作演習	自分で企画・収録・発信する。セルフディレクションの練習		
	27	具体的な未来計画①	1年後の目標(KGI)と、今月やるべき行動(KPI)の設定		
	28	具体的な未来計画②	3年後・5年後のキャリアパス。パラレルキャリアの検討		
	29	模擬オーディション・最終演習	プロフィールシートとボイスサンプルを用いたトータルチェック		
30	修了発表	「3年後の自分へのコミットメント」:プロフィールシートの完成			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	配信実習 I		指導担当者名	穂月こはる	
実務経験	有	声優・役者として6年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	アバターを作り、配信プラットフォームで番組を作って配信できるようになる。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン(カメラ付き)、マイク、ヘッドホン、マウス、インターフェース、OBS、YouTube、VRoidスタジオ、3tene				
授業外学習の方法	OBSとYouTubeを繋いで非公開設定にして配信練習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  前 期	1	オリエンテーション	自己紹介、授業内容の説明など		
	2	VRoidダウンロード、作成	指定したアバターを作成して操作に慣れてもらう		
	3	VRoid作成続き、3teneダウンロード	VRoid作成が終わったら、エクスポートして、3teneを触る		
	4	OBSダウンロード	OBSと3teneとVRoidを使って動かしてみる		
	5	指定アバターでお話練習	指定アバターを動かしながら話す練習をする		
	6	VRoid作成1	自分のなりたい姿のVRoidをつくる		
	7	VRoid作成2	VRoidができれば、設定などを練る		
	8	VRoid作成3	エクスポートして、3teneで動かす		
	9	VRoidでお話練習2	練った設定通りに話す練習をする		
	10	YouTubeチャンネル作り 前準備	チャンネル用の素材を集めたり、作ったりする		
	11	YouTubeチャンネル作り2	チャンネル概要を決める、Googleアカウント作成する		
	12	YouTubeチャンネル作り3	YouTubeチャンネルを作る		
	13	YouTubeチャンネルとOBSの接続	接続する方法の学習、非公開で配信する仕方の学習		
	14	テスト	VRoidをOBSをつかってYouTubeで非公開配信する		
	15	ブラッシュアップ	テストを受けてのアドバイスや復習		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	配信実習 I		指導担当者名	穂月こはる	
実務経験	有	声優・役者として6年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	アバターを作り、配信プラットフォームで番組を作って配信できるようになる。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン(カメラ付き)、マイク、ヘッドホン、マウス、インターフェース、OBS、YouTube、VRoidスタジオ、3tene				
授業外学習の方法	OBSとYouTubeを繋いで非公開設定にして配信練習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画  後期	16	オリエンテーション	後期でやることの説明など		
	17	前期の復習	YouTubeとVRoidの使い方の復習		
	18	ネットリテラシーについて	簡単に配信で気をつけることを学習		
	19	仮番組の課題	指定のテーマで15分の仮番組を考案してもらう		
	20	仮番組の課題2	仮番組を発表してもらう		
	21	仮番組の課題3	ブラッシュアップし、非公開で配信してもらう		
	22	VRoidのモーション学習	モーションのショートカットキーを設定する		
	23	VRoidでお話練習3	練ったキャラクターでモーションを使って話す		
	24	番組考案1、ワンコメをダウンロードする	ワンコメの導入、番組の内容を考える		
	25	番組考案2	番組の内容を考える、台本作成する		
	26	番組考案3	フリーBGMや配信画面を探す		
	27	番組考案4	配信前の前のテストとして練習		
	28	番組考案5	練習 & 配信テストの配信投稿予約をする。		
	29	非公開で配信テスト	YouTubeで非公開設定にして配信テストする		
30	YouTubeで番組配信	自分一人で全て設定して配信する			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習 I		指導担当者名	藤原悦子	
実務経験	有	ダンサー・ダンスインストラクターとして10年以上従事、ダンススタジオ経営。			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>身体の基礎能力向上: 表現の土台となる柔軟性、体幹、リズム感を習得する。                  表現の言語化: 身体のパーツを意識的にコントロールし、意図した「役」や「キャラクター」を動きで体現できる。                  プロ意識の形成: 集団の中での調和(フォーメーション)と、観客を意識したプロフェッショナルなパフォーマンス力を身につける。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。                  期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。                  成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。                  上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ダンスしやすい服装、バレエシューズ、タオル 等				
授業外学習の方法	ストレッチ: 可動域を広げ、怪我を防止する。/ 体幹トレーニング: 発声や激しい動きを支える軸を作る。/ アイソレーション: 首、肩、胸、腰をバラバラに動かす基礎練習。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  前 期	1	オリエンテーション	授業の流れ、ダンスが表現者に必要な理由、プロとしての心得		
	2	ダンス入門知識	用語解説、リズムの取り方(アップ・ダウン)、重心の意識		
	3	体作り①: 柔軟	柔軟性の向上と、自分の体の可動域・癖を知る		
	4	体作り②: インナー	ダンス・発声に直結する腹筋・背筋・体幹の強化		
	5	バレエ基礎①	美しい立ち姿(ポスター)、足のポジション、プリエ		
	6	バレエ基礎②	体の軸(センター)の意識、タンジュ、基本的な手の動き		
	7	リズム・ワーク①	4ビート・8ビートを全身で刻む、ステップの基本		
	8	リズム・ワーク②	体の一部(首・胸など)を独立させて動かすアイソレーション		
	9	ジャズダンス基礎①	俳優・声優の舞台に欠かせない、しなやかな動きとターン		
	10	ジャズダンス基礎②	クロス・ザ・フロア(移動しながらのステップと表現)		
	11	コンビネーション①	基礎的なステップを組み合わせた短いフレーズの練習		
	12	コンビネーション②	振付を覚えるスピード(キャッチカ)のトレーニング		
	13	セルフコントロール	自分の動きを鏡や動画で客観視し、改善点を見つける		
	14	上期総括	基礎ステップと柔軟性の最終確認、フィードバック		
	15	中間実技テスト	基礎ムーブメント・規定の振付の披露 + 夏季課題(筋トレメニュー)配布		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習 I		指導担当者名	藤原悦子	
実務経験	有	ダンサー・ダンスインストラクターとして10年以上従事、ダンススタジオ経営。			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>身体の基礎能力向上: 表現の土台となる柔軟性、体幹、リズム感を習得する。</p> <p>表現の言語化: 身体のパーツを意識的にコントロールし、意図した「役」や「キャラクター」を動きで体現できる。</p> <p>プロ意識の形成: 集団の中での調和(フォーメーション)と、観客を意識したプロフェッショナルなパフォーマンス力を身につける。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	ダンスしやすい服装、バレエシューズ、タオル 等				
授業外学習の方法	ストレッチ: 可動域を広げ、怪我を防止する。/ 体幹トレーニング: 発声や激しい動きを支える軸を作る。/ アイソレーション: 首、肩、胸、腰をバラバラに動かす基礎練習。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  後 期	16	下期ガイダンス	後半目標設定、プロのステージマナーと気持ちの作り方		
	17	キャラクター表現①	役になりきって踊る。指先や目線による感情の乗せ方		
	18	キャラクター表現②	VTuber向けの大きく明快な動きと、静止の美学		
	19	ヒップホップ基礎①	現代のアイドル・ライブ活動に必要なストリート系の動き		
	20	ヒップホップ基礎②	重低音を感じるダウンのリズムと、力強いステップ		
	21	振付演習①	1コーラス分の振付を短時間でインプットする訓練		
	22	振付演習②	振付の「ニュアンス」を捉え、自分の色を足す方法		
	23	グループ表現①	フォーメーション(隊列)の基礎。他者との距離感と同期		
	24	グループ表現②	ユニゾン(全員一致)とカノン(時間差)の習得		
	25	空間意識とカメラワーク	客席やカメラを意識した顔の向き、アピールポイントの作り方		
	26	パフォーマンス演習①	楽曲選定・チーム分け。自分たちで構成案を考える		
	27	パフォーマンス演習②	リハーサル形式での練習。衣装や見せ方の検討		
	28	総合ブラッシュアップ	動きのキレ、スタミナ、笑顔と呼吸のコントロール		
	29	最終リハーサル	メンタルコントロールと、プロとしての本番への挑み方		
30	修了発表会	グループ単位でのダンスパフォーマンス+自己評価シート提出			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習 I		指導担当者名	伊東 広	
実務経験	有	音響制作業、防音施工業に10年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	本講座では、声優・俳優・VTuberとして自律して活動するためのデジタル制作技術を習得します。ハードウェア(マイク・ミキサー等)の物理的な接続から、Audacityを用いた音声編集、エフェクト加工、ミキシングまでを一貫して行える能力を養います。ボイスサンプル、ラジオCM、歌唱音源の制作を通じて、視聴者の耳に届く「作品」としてのクオリティを追求し、デジタルメディア時代に対応できる次世代の表現者を目指します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	パソコン、マイク、ミキサー、ケーブル、Audacity 等				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	授業概要、機材収納位置の確認、自己紹介(PC・音響経験の共有)		
	2	音響基礎: マイクと環境	マイクの特性・用途の理解、ノイズの少ない録音環境の構築		
	3	音響基礎: ハードウェア	音の流れ(結線)、ミキサー・スピーカー基礎、ケーブルの8の字巻き		
	4	Audacity: 導入	ソフトのインストール、基本設定(録音・保存・ショートカット慣熟)		
	5	Audacity: 操作慣熟①	オーディオインターフェース(AG03)使用法、録音・書き出しの反復		
	6	ボイス種確認実習	自分の声質の把握。『桃太郎』『三匹の子豚』等を教材に録音		
	7	AGコントローラー応用	コンプレッサー・イコライザの設定。『赤ずきん』等で音質変化を体験		
	8	エフェクト加工術	エフェクトの種類(リバーブ、ピッチ等)、アラジン風ボイス加工		
	9	エンジニアリング演習	録音オペレーション実習。チームを組み、他者の録音をサポートする		
	10	ミキシング基礎	ナレ・ボイスにBGMや効果音を加え、適切なバランス感覚を磨く		
	11	ボイサン制作: 研究	プロのボイスサンプル試聴。自身の売りを活かす台本選定(宿題)		
	12	ボイサン制作: 添削	台本添削、仮録音の実施。間の取り方や表現のセルフディレクション		
	13	ボイサン制作: 本録音	上期の集大成。ボイスサンプルの本番収録(期末課題制作)		
	14	ボイサン制作: 整音	録音音源のノイズ除去、マスタリング、最終書き出し		
	15	上期期末発表会	完成したボイスサンプルの試聴・評価。自身の「声」の客観視		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習 I		指導担当者名	伊東 広	
実務経験	有	音響制作業、防音施工業に10年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	本講座では、声優・俳優・VTuberとして自律して活動するためのデジタル制作技術を習得します。ハードウェア(マイク・ミキサー等)の物理的な接続から、Audacityを用いた音声編集、エフェクト加工、ミキシングまでを一貫して行える能力を養います。ボイスサンプル、ラジオCM、歌唱音源の制作を通じて、視聴者の耳に届く「作品」としてのクオリティを追求し、デジタルメディア時代に対応できる次世代の表現者を目指します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	パソコン、マイク、ミキサー、ケーブル、Audacity 等				
授業外学習の方法	各自復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画 後期	16	下期ガイダンス	後半目標設定。効果音制作(SE制作)の概念と手法		
	17	Audacity:効果音制作	エフェクトを駆使した音加工、書き出し実習。ラジオCM台本準備		
	18	ラジオCM制作①	ラジオCMの構造。ボイス録音と自作効果音・BGMの仮配置		
	19	ラジオCM制作②	音の遠近感、情報の強調。秒数指定に合わせたミキシング		
	20	ラジオCM試聴会	提出作品の評価。短い尺の中で個性を出す技術を学ぶ		
	21	「歌ってみた」研究	CV(キャラ声)での歌唱の留意点。オケと歌のバランス学		
	22	うたってみた実習①	録音準備。レイテンシ(音ズレ)対策(状況によりCubase併用)		
	23	うたってみた実習②	ボーカル録音。納得がいくまでフレーズごとの精練を繰り返す		
	24	うたってみた実習③	本録音完了。ハモリやガヤなど予備素材の収録		
	25	ミキシング応用①	ボーカル整音(ピッチ補正の概念、EQ、空間系エフェクト)		
	26	ミキシング応用②	伴奏(オケ)と歌の馴染ませ。ダイナミクスの調整		
	27	期末課題制作:本録音	下期総合課題。各自の得意分野を活かしたコンテンツ本録音		
	28	期末課題制作:編集	Audacityを用いた高度なミキシング・マスタリング作業		
	29	下期期末発表会	制作音源の発表と、技術的・表現的側面からの評価		
30	年間総括・メンテ	1年間のアーカイブ化。機材清掃、スタジオ復旧、次年度への目標			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習 I		指導担当者名	ちば えみ	
実務経験	有	ラジオパーソナリティー、司会、ナレーターとして10年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>身体能力の向上と舞台表現の全工程を習得することを目指します。体幹・発声・滑舌といった基礎力を盤石にし、ワークショップや台本実習を通じてキャラクターを具体化する演技力を養います。また、スタッフワークや稽古を通じて、集団創作に不可欠な責任感と協調性を学びます。最終的には、卒業・修了公演という実践を通じ、どのような現場でも主体的に役を生き、観客に感動を届けられるプロフェッショナルな表現力を獲得します。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	動きやすい服装、衣装、台本、筆記用具 等				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  前 期	1	オリエンテーション	授業の目的、自己紹介、表現者としての目標設定		
	2	体づくりと発声①	体幹トレーニングの基礎、正しい姿勢と腹式呼吸の連動		
	3	体づくりと発声②	身体の柔軟性と共鳴。インナーマッスルを意識した発声強化		
	4	滑舌と表現①	『外郎売』を用いた滑舌練習。鼻濁音や無声化の徹底		
	5	滑舌と表現②	『外郎売』を異なる感情やキャラクター設定で表現する		
	6	演技基礎: 顔合わせ	青木先生との顔合わせ。プロの現場における礼儀と心得		
	7	ワークショップ①	エチュード(即興劇)を通じた感情解放と自己発見		
	8	ワークショップ②	相手の動きや言葉に反応する「リアクション」の基礎		
	9	演技表現①: 読解	短い台本を用いた読解。セリフの裏にある「目的」を探る		
	10	演技表現②: 身体	言葉を使わずに「状況」や「関係性」を伝える身体表現		
	11	舞台演劇表現①	舞台機構(上手・下手等)の理解と、舞台上での立ち居振る舞い		
	12	舞台演劇表現②	空間意識。広い会場の最後列まで届く発声とエネルギー		
	13	アンサンブル演習	複数人での掛け合い。空気感を共有し、間を作る訓練		
	14	上期総括実習	基礎能力の総点検。自身の強みと課題の明確化		
	15	中間発表会(期末試験)	一人芝居または二人芝居による実技審査		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習 I		指導担当者名	ちば えみ	
実務経験	有	ラジオパーソナリティー、司会、ナレーターとして10年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>身体能力の向上と舞台表現の全工程を習得することを目指します。体幹・発声・滑舌といった基礎力を盤石にし、ワークショップや台本実習を通じてキャラクターを具体化する演技力を養います。また、スタッフワークや稽古を通じて、集団創作に不可欠な責任感と協調性を学びます。最終的には、卒業・修了公演という実践を通じ、どのような現場でも主体的に役を生き、観客に感動を届けられるプロフェッショナルな表現力を獲得します。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	動きやすい服装、衣装、台本、筆記用具 等				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  後 期	16	下期ガイダンス	公演計画の共有、配役発表、台本の読み合わせ		
	17	舞台づくり:役作り	台本分析。キャラクターの履歴書作成と内面の構築		
	18	スタッフワーク基礎①	舞台を支える音響・照明・衣装・小道具の役割と連携		
	19	スタッフワーク基礎②	制作(広報・受付等)の理解と、座組(チーム)の結束		
	20	公演稽古①:立ち稽古	ミゼンス(動線)の構築。舞台上の位置関係を体で覚える		
	21	公演稽古②:肉付け	役としての「居方」の追求。セリフを自分の言葉にする		
	22	公演稽古③:抜き稽古	重要なシーンの徹底的な反復練習と精度向上		
	23	公演稽古④:通し稽古	作品全体のテンポ・リズムの確認と修正		
	24	舞台づくり:準備	大道具・小道具の製作。美術面からの世界観構築		
	25	公演稽古⑤:深化	感情の深掘り。テクニクを超えた「役を生きる」実践		
	26	公演稽古⑥:総仕上げ	演出の微調整。観客への伝わり方を客観的に確認		
	27	テクニカルリハーサル	照明・音響等のきっかけ確認(場当たり)		
	28	ドレスリハーサル	本番の衣装・メイクを完備した状態での最終リハーサル		
	29	卒業・修了公演(期末試験)	本番。観客を前に、練習の成果をプロとして披露する		
30	振り返りと総括	公演映像の確認、自己評価、舞台片付け(撤収)の完遂			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	MC・ラジオ実習 I		指導担当者名	ちば えみ	
実務経験	有	ラジオパーソナリティー、司会、ナレーターとして10年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	ラジオ制作の全工程(企画・取材・構成・台本・出演)を経験することで、マルチに活躍できる表現者の基礎能力を習得します。特に「ココラジ」での生放送実習を通じて、限られた時間内で情報を正確に伝え、かつエンターテインメントとして成立させる瞬発力と責任感を養います。最終的には、自らの言葉でリスナーと繋がり、番組を主体的に運営できるMCスキルの確立を目指します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	パソコン、マイク、ミキサー、台本、ケーブル類、BGM、SE、楽曲 等				
授業外学習の方法	各自復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	ラジオ番組を作る心構え、媒体の特性、聴取者意識の醸成		
	2	コンテンツ探索①	興味のあるテーマを探す。日常からネタを拾うトレーニング		
	3	グループワーク①	グループ編成とテーマの共有。独自の視点を見つける		
	4	インタビュー術	ゲスト(#9渡辺さん等)へのインタビュー準備と質問案作成		
	5	インタビュー実践	ゲストを招いたインタビュー実施と、相手の魅力を引き出す技術		
	6	コンテンツ探索②	グループ変更。異なる視点から新しいテーマを探る		
	7	番組制作の深化①	前回見つけたテーマをさらに掘り下げ、番組の核を固める		
	8	番組の構成を考える	最終グループ決定。番組全体の流れ(タイムテーブル)の構築		
	9	番組制作の深化②	決定したテーマの確定。ターゲット層と番組名の設定		
	10	コーナー制作①	リスナーが参加したくなるような番組内コーナーの企画案作成		
	11	コーナー制作②	コーナー内容の具体化と、各役割(MC、構成、進行)の分担		
	12	取材・リサーチ①	コーナー内容に沿った外部取材、資料収集の実践		
	13	取材・リサーチ②	取材した内容の吟味。放送で「使う情報」と「捨てる情報」の選別		
	14	台本作成と構成	取材内容を基にした進行台本の執筆。尺(時間)の調整		
	15	中間発表会	収録形式での番組発表と相互評価。上期の振り返り		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	MC・ラジオ実習 I		指導担当者名	ちば えみ	
実務経験	有	ラジオパーソナリティー、司会、ナレーターとして10年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	ラジオ制作の全工程(企画・取材・構成・台本・出演)を経験することで、マルチに活躍できる表現者の基礎能力を習得します。特に「ココラジ」での生放送実習を通じて、限られた時間内で情報を正確に伝え、かつエンターテインメントとして成立させる瞬発力と責任感を養います。最終的には、自らの言葉でリスナーと繋がり、番組を主体的に運営できるMCスキルの確立を目指します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	パソコン、マイク、ミキサー、台本、ケーブル類、BGM、SE、楽曲 等				
授業外学習の方法	各自復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画  後 期	16	生放送の基礎知識	録音と生放送の違い。タイムキーブと突発的な事故への対応		
	17	ココラジ実習準備①	ココラジの放送枠を想定した企画立案と、機材・環境の確認		
	18	生放送トレーニング①	フリートークの練習。1分・3分の時間感覚を身につける		
	19	生放送トレーニング②	ニュース、告知、曲紹介(Qショット)の練習		
	20	ココラジ実習準備②	生放送用台本の作成。リスナーからのメール対応シミュレーション		
	21	生放送実践①	ココラジにおける生放送(または模擬生放送)の実施		
	22	振り返りと改善①	放送後の音声確認。反省点の抽出と次回の目標設定		
	23	生放送実践②	フィードバックを反映させた2回目の放送実践		
	24	振り返りと改善②	安定したトークができているか、声のトーンや滑舌の再確認		
	25	生放送実践③	トラブル(時間の余り・不足等)への対応訓練を含む放送実践		
	26	振り返りと改善③	グループ内での役割交代。ディレクター視点での評価		
	27	生放送実践④	最終シリーズ。完成度の高い番組を目指した放送		
	28	振り返りと改善④	リスナー(想定)の反応を意識した番組のブラッシュアップ		
	29	生放送総仕上げ	これまでの集大成としての生放送実施		
30	最終振り返りと修了	全8回の生放送実習を通じた自己成長の確認と修了評価			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	Vtuber実習 I		指導担当者名	ナナホシナナ	
実務経験	有	大学に4年間在籍、Vtuberとして5年間従事			
開講時期	通年		対象学科学年	声優科1年	
授業方法	講義:		演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	Vtuberとして技術・知識・精神の両面で自立し、プロの現場で通用する「持続可能な活動形態」を確立することです。IP知識やリテラシーに基づいた高い安全意識を持ち、数字に翻弄されない確固たるメンタルと、市場分析に基づいた独自の戦略を立案できる能力を養います。最終的には、企画から配信、広報、収益管理までを一貫してセルフプロデュースできる「次世代型の表現者」を目指します。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、配信機材 等				
授業外学習の方法	各自復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	Vtuberの定義、市場の現状、1年後の到達目標設定		
	2	IP(知的財産)の基礎知識	著作権、肖像権、商標権。アバターやイラストの権利関係		
	3	ネットリテラシー教育	個人情報特定の手口と防衛策。SNSでの情報発信リスク		
	4	Vtuberコンプライアンス①	切り抜き動画、二次創作ガイドラインの作成と運用		
	5	Vtuberコンプライアンス②	誹謗中傷への法的対応と、アンチ・荒らしへの対処法		
	6	メンタルヘルスマネジメント	エゴサーチとの付き合い方、孤独感や比較による焦燥の解消		
	7	キャラクターデザイン研究	自分の「強み」を視覚化する。色、モチーフ、シルエット戦略		
	8	デビュー準備:機材編	PCスペック、マイク、カメラ、トラッキングソフトの選定		
	9	配信環境の構築	OBS Studioの基本操作、オーバーレイ、BGM設定		
	10	「中の人」と「外の人」	RP(ロールプレイ)の深度設定と、一貫性のあるキャラ作り		
	11	デビュー戦略:初配信	期待感を高める待機画面、カウントダウン、自己紹介スライド		
	12	配信技術実習①:雑談	コメントを拾う技術、沈黙を怖がらないトークスキルの習得		
	13	配信技術実習②:ゲーム	プレイとトークの並行処理。権利確認済みのゲーム選び		
	14	上期総括・中間評価	ここまでの準備状況のセルフチェックとフィードバック		
	15	模擬初配信テスト	限定公開での「30分間初配信」実践と、相互レビュー		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	Vtuber実習 I		指導担当者名	ナナホシナナ	
実務経験	有	大学に4年間在籍、Vtuberとして5年間従事			
開講時期	通年		対象学科学年	声優科1年	
授業方法	講義:		演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	Vtuberとして技術・知識・精神の両面で自立し、プロの現場で通用する「持続可能な活動形態」を確立することです。IP知識やリテラシーに基づいた高い安全意識を持ち、数字に翻弄されない確固たるメンタルと、市場分析に基づいた独自の戦略を立案できる能力を養います。最終的には、企画から配信、広報、収益管理までを一貫してセルフプロデュースできる「次世代型の表現者」を目指します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	パソコン、配信機材 等				
授業外学習の方法	各自復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業計画 後期	16	下期ガイダンス	デビュー後のデータの読み方(アナリティクス入門)		
	17	配信企画の発想法	100回続くルーティン企画と、一発逆転の大型企画の作り方		
	18	数字を増やすノウハウ①	サムネイルデザインの心理学。クリック率を高める工夫		
	19	数字を増やすノウハウ②	YouTube/TikTokショート動画の活用。新規層へのリーチ		
	20	差別化戦略:独自性	「歌」「声劇」「専門知識」など、自分だけの武器の掛け合わせ		
	21	コラボレーション戦略	相手も自分も得をする企画。マナーと円滑な打ち合わせ術		
	22	コミュニティ・マネジメント	ファンとの距離感、モデレーター運用、メンバーシップ施策		
	23	プロとしてのビジネス意識	案件の受け方、企業との契約書チェック、確定申告の基礎		
	24	マルチプラットフォーム戦略	Twitch、X、FANBOXなど、各メディアの使い分け		
	25	危機管理シミュレーション	万が一の炎上時の対応フロー、謝罪文の書き方、休止判断		
	26	最新トレンド分析	メタバース、AI、VR。次世代のVtuberに求められる適応力		
	27	未来計画:継続の技術	3年後の自分のための活動バランス設定(学業・仕事との両立)		
	28	総合演習①:企画立案	オリジナル企画の構成台本作成とビジュアル素材準備		
	29	総合演習②:最終調整	リハーサル。トラブル発生時のアドリブ対応訓練		
30	修了発表	「渾身の1時間配信企画」の実践と活動ロードマップの発表			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	声優総合実習 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>声優・俳優・VTuberとして自立し、プロの現場で即戦力として通用するための「自己プロデュース能力」と「実務対応力」の習得を目指します。宣材写真やプロフィールシートといった「選ばれるための武器」を完成させ、オーディションや企業案件を想定した模擬実習を通じて、どのような環境でも自分を最大限にプレゼンテーションできる能力を養います。技術だけではなく、業界を生き抜くための多角的な視点を備えた表現者を育成します。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、配信機材 等				
授業外学習の方法	各自復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業概要、1年間のゴール設定、プロとしてのマインドセット		
	2	最新業界研究①	声優・俳優・VTuber業界の市場構造と、現在のトレンド分析		
	3	最新業界研究②	プロダクション(事務所)の種類と特徴、求める人材像の把握		
	4	セルフ分析ワーク	自分の声質、適性、キャラクターの特定。USP(強み)の抽出		
	5	ヘアメイク講座①	宣材写真・オーディション用の基礎メイク。顔立ちを活かす技法		
	6	ヘアメイク講座②	髪型と衣装のトータルコーディネート。清潔感とキャラ立ちの両立		
	7	宣材写真撮影実習①	撮影に向けたポージング・表情のトレーニング		
	8	宣材写真撮影実習②	本番撮影:カメラマンを招き、最高の一枚を撮り下ろす		
	9	プロフィールシート作成①	項目別の書き方(経歴・特技・自己PR)。魅力的な言葉選び		
	10	プロフィールシート作成②	撮影した写真を用いたシート完成。修正とブラッシュアップ		
	11	舞台スタッフワーク基礎①	舞台機構、照明・音響の役割。演者を支える側の視点を持つ		
	12	舞台スタッフワーク基礎②	現場での安全管理、挨拶、連携。プロとしての規律を学ぶ		
	13	ナレーター特別授業①	映像に声を当てる「伝え手」としての技術。原稿読解の基礎		
	14	ナレーター特別授業②	尺(秒数)管理と、クライアントの要望に応える瞬発力		
	15	期末試験	制作物の確認と、下期に向けた課題の明確化		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	声優総合実習 I		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	声優科1年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>声優・俳優・VTuberとして自立し、プロの現場で即戦力として通用するための「自己プロデュース能力」と「実務対応力」の習得を目指します。宣材写真やプロフィールシートといった「選ばれるための武器」を完成させ、オーディションや企業案件を想定した模擬実習を通じて、どのような環境でも自分を最大限にプレゼンテーションできる能力を養います。技術だけではなく、業界を生き抜くための多角的な視点を備えた表現者を育成します。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、配信機材 等				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	下期ガイダンス	実戦演習の進め方。プロの現場でのコミュニケーションマナー		
	17	企業案件シミュレーション①	クライアントからの発注(ディレクション)を理解し体現する訓練		
	18	企業案件シミュレーション②	修正依頼(リテイク)への柔軟な対応と、プロとしての責任感		
	19	オーディション対策①	書類審査を通るための戦略。サンプルボイスとの運動性		
	20	オーディション対策②	実技審査(初見台本、演技)の攻略法。第一印象の作り方		
	21	オーディション対策③	自己PR(30秒・1分)の完成。自分の魅力を短時間で伝える術		
	22	模擬オーディション①	入室から退室までの一連の流れ。マナーと質疑応答		
	23	模擬オーディション②	外部講師・プロの視点による審査と、個別の講評・改善		
	24	模擬オーディション③	改善点の克服。自信を持ってカメラや審査員の前に立つ練習		
	25	メディア対応・SNS戦略	表現者としてのSNS運用。リスク管理とセルフブランディング		
	26	業界マナーと契約知識	仕事の受け方、ギャランティ、肖像権等の権利関係の基礎		
	27	総合演習: プレゼン発表	「自分という商品」のプレゼンテーション。シートと演技の統合		
	28	卒業・進路指導ワーク	事務所所属オーディション、フリー活動など、出口戦略の構築		
	29	期末試験	1年間の成長確認。完成したプロフィールシートの最終提出		
30	年間振り返り	クラス全体でのフィードバック。次年度に向けた決意表明			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	修了制作実習 I	指導担当者名	常勤
実務経験	無		
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 1年生
授業方法	講義:	演習:	実習: ○ 実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位 週時間数
学習到達目標	・1年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>		
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。		
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授 業 計 画  後 期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく
	3	作品制作③	中間発表
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
履修上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ボイストレーニング実習Ⅱ		指導担当者名	山家ちあき	
実務経験	有	ボイストレーナー業に6年以上従事			
開講時期	通年		対象学科学年	声優科2年	
授業方法	講義:		演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	1年次で修得した発声・呼吸法を「現場で通用する武器」へと進化させることを目標とします。正確なピッチとリズムでの歌唱能力、口腔・咽頭共鳴を操ることによる幅広いキャラクター演じ分け、そしてアナウンサーレベルの明瞭な滑舌を獲得します。また、骨導音・気導音の理解に基づいたセルフディレクション能力を養い、オーディションやライブにおいて、自身の魅力を最大限に発揮できるプロフェッショナルな喉を確立します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	電子ピアノ、マイク、マイクケーブル、譜面、台本 等				
授業外学習の方法	ブレスコントロール(腹式呼吸トレーニング) / 発声基礎練習 / 『外郎売り』(滑舌・鼻濁音・無声化の確認)				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  前 期	1	オリエンテーション	授業の流れ、注意事項、自己紹介、目標達成シート記入		
	2	呼吸・構えの再構築	腹式呼吸の深化と、瞬時に最大吸気を行うための体幹訓練		
	3	音声認識のメカニズム	骨導音と気導音の違いを理解し、録音素材を用いた「聴こえ方」の修正		
	4	口腔・咽頭共鳴の応用	響きのポイントを移動させ、声色(明るさ・深さ)を自在に操る		
	5	弱点克服トレーニング	自分の苦手な行・発音を特定し、舌の動きを物理的に改善する		
	6	ピッチコントロール基礎	1/4音単位の正確なピッチ調整と、ビブラートの使い分け		
	7	プロフェッショナル読解	アナウンサーレベルの正確かつ明瞭な初見原稿読み		
	8	演技への応用①	セリフチェック: 台本の裏にある感情を声の成分に載せる		
	9	演技への応用②	キャラクターの肉付け: 声帯の締め具合による年齢・性格の変化		
	10	ヴォーカル基礎: 高音域	ミックスボイス・ヘッドボイスを用いた高音域の安定化		
	11	ヴォーカル基礎: 低音域	チェストボイスの深みと、倍音成分を増やすエッジボイスの習得		
	12	ヴォーカル: リズム感	16ビート・シンコペーションを意識した歌唱リズムの取り方		
	13	上期総括リハーサル	テスト課題(課題台本・外郎売)のブラッシュアップ		
	14	上期実技テスト	課題台本・模擬オーディション形式での実技審査		
	15	テスト講評・夏季課題	フィードバックと夏季休暇中のボイスケア・課題配布		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ボイストレーニング実習Ⅱ		指導担当者名	山家ちあき	
実務経験	有	ボイストレーナー業に6年以上従事			
開講時期	通年		対象学科学年	声優科2年	
授業方法	講義:		演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	1年次で修得した発声・呼吸法を「現場で通用する武器」へと進化させることを目標とします。正確なピッチとリズムでの歌唱能力、口腔・咽頭共鳴を操ることによる幅広いキャラクター演じ分け、そしてアナウンサーレベルの明瞭な滑舌を獲得します。また、骨導音・気導音の理解に基づいたセルフディレクション能力を養い、オーディションやライブにおいて、自身の魅力を最大限に発揮できるプロフェッショナルな喉を確立します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	電子ピアノ、マイク、マイクケーブル、譜面、台本 等				
授業外学習の方法	ブレスコントロール(腹式呼吸トレーニング) / 発声基礎練習 / 『外郎売り』(滑舌・鼻濁音・無声化の確認)				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	下期ガイダンス	後半目標設定、喉のメンテナンスとスタミナ管理の再確認		
	17	共鳴の複合トレーニング	口腔・咽頭・鼻腔共鳴を同時に操る、密度のある声作り		
	18	アナウンス・ナレーション	長尺の原稿を疲れずに、かつ明瞭に読み切る持久力訓練		
	19	演技深化: 距離感の表現	声のボリュームではなく「密度」で変える、空間的な演技表現		
	20	演技深化: 多役の演じ分け	1つの声帯から複数のキャラクターを瞬時に生み出す技術		
	21	歌唱表現: Aメロの表現	語りかけるような歌唱技術と、ダイナミクスの付け方		
	22	歌唱表現: サビの爆発力	感情と声圧をリンクさせ、聴き手の心に届ける歌唱実践		
	23	リズムとグルーヴ	楽曲のジャンルに合わせたノリの表現と、裏拍の意識		
	24	フルコーラス歌唱①	1曲を通したペース配分。ブレスポイントの完全設計		
	25	フルコーラス歌唱②	キャラクターソングを想定した「役として歌う」技術の精錬		
	26	模擬AD・ボイスン対策	自己PRと短文セリフを用いた、最短で魅力を伝える発声		
	27	ライブパフォーマンス演習	動きながらの発声・歌唱。マイクワークとブレスの融合		
	28	期末テストリハーサル	全30回の集大成としての課題曲・課題台本の最終調整		
	29	期末実技テスト	フルコーラス歌唱 + キャラクター演技審査		
30	年間総括・自己評価	1年間の成長記録の確認、ポートフォリオ用素材の選別			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	アフレコ実習		指導担当者名	小椋有紗	
実務経験	有	声優、役者として6年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	アニメーション作品におけるアフレコの全工程を習得します。日常・ギャグ・バトルといったジャンルごとの発声・演技の使い分けはもちろん、機材設営から、オーディションを勝ち抜き、実際の収録現場(3時間という限られた時間)で成果を出すプロのワークフローを体得します。最終的には、映像に対して正確に音を当てる技術と、キャラクターの命を吹き込む表現力の両立を目指します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	モニター、録音機材、マイク、台本 等				
授業外学習の方法	ブレスコントロール(腹式呼吸トレーニング) / 発声基礎練習 / 『外郎売り』(滑舌・鼻濁音・無声化の確認)				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  前 期	1	オリエンテーション	授業の流れ、注意事項。アフレコの基礎知識、事務所・養成所について		
	2	実技①-1: 日常会話(1)	会話を成立させる: 機材設営の習得、マイク前での自然な掛け合い		
	3	実技①-2: 日常会話(2)	距離感と表情: マイクとの距離による音圧調整、表情と声の連動		
	4	実技①-3: 日常会話(3)	心情表現: 台本読解に基づいたキャラクターの正しい心情表現		
	5	実技②-1: ギャグ(1)	笑いの技術: デフォルメされた演技の難しさと発声の切り替え		
	6	実技②-2: ギャグ(2)	テンポと間: コメディ特有のスピード感と、笑いを取る「間」の意識		
	7	実技②-3: ギャグ(3)	臨機応変な対応: 相手の出方に合わせたアドリブ的反応の訓練		
	8	実技③-1: リメイク(1)	時代背景の理解: 昭和・平成作品を教材に、時代特有の表現を学ぶ		
	9	実技③-2: リメイク(2)	演技の再構築: 旧作の踏襲ではなく、現代に求められる新しい演技		
	10	実技③-3: リメイク(3)	長回し収録: 集中力を維持し、1シーンを止めずに録り切る実戦		
	11	前期試験対策(1)	試験台本の配布、配役検討、抜き稽古によるブラッシュアップ		
	12	前期試験対策(2)	映像とのタイミング合わせ(ボールド確認)とマイクワークの最終調整		
	13	前期期末テスト	課題台本からの抜粋による実技審査		
	14	前期試験の振り返り	録音音声の確認、個別の弱点克服アドバイス		
	15	上期総括・夏季課題	業界研究レポートまたは特定ジャンルのセリフ練習課題の配布		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	アフレコ実習		指導担当者名	小椋有紗	
実務経験	有	声優、役者として6年以上従事			
開講時期	通年		対象学科学年	声優科2年	
授業方法	講義:		演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	アニメーション作品におけるアフレコの全工程を習得します。日常・ギャグ・バトルといったジャンルごとの発声・演技の使い分けはもちろん、機材設営から、オーディションを勝ち抜き、実際の収録現場(3時間という限られた時間)で成果を出すプロのワークフローを体得します。最終的には、映像に対して正確に音を当てる技術と、キャラクターの命を吹き込む表現力の両立を目指します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	モニター、録音機材、マイク、台本 等				
授業外学習の方法	ブレスコントロール(腹式呼吸トレーニング) / 発声基礎練習 / 『外郎売り』(滑舌・鼻濁音・無声化の確認)				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画  後期	16	後期オリエンテーション	後期の進め方、夏季課題提出。実技④-1:異世界アニメの世界観理解		
	17	実技④-2:異世界アニメ	キャラ付け:人間離れた役や特殊設定に負けない声のキャラクター立て		
	18	実技⑤-1:バトル(1)	息の演技:戦闘時の呼吸、攻撃時の力の込め方、リアクション		
	19	実技⑤-2:バトル(2)	必殺技とダメージ:限界状態のダメージボイス、決め台詞の発声		
	20	実技⑥:特殊環境	囁き声、回想、モノローグ等、マイクワークの応用技術		
	21	期末テスト準備(1)	キャストオーディション(AD):期末用台本配布、AD形式での選考		
	22	期末テスト準備(2)	オーディション結果に基づく配役決定、香盤表の確認		
	23	1話収録リハーサル(1)	収録作品の読解(本読み)、演出意図の共有		
	24	1話収録リハーサル(2)	A/パート・B/パート別の抜き稽古、技術的な課題の解消		
	25	後期期末テスト(AD)	模擬オーディション審査:自己PRと指定セリフによる最終評価		
	26	テストフィードバック	オーディション時の立ち振る舞いと演技に対するプロ視点での講評		
	27	1話収録直前稽古	全体の流れ(テンポ)の確認、ギャ(群衆シーン)の構成検討		
	28	後期期末テスト(収録)	実践・1話完パケ収録:3時間で作品1話を録り切る現場シミュレーション		
	29	収録作品の試聴会	完成した作品の確認。自身の演技と全体バランスの客観視		
30	年間総括・自己評価	1年間の到達度確認、目標達成シートの最終記入			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習Ⅱ		指導担当者名	藤原悦子	
実務経験	有	ダンサー・ダンスインストラクターとして10年以上従事、ダンススタジオ経営。			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	プロの現場で即戦力となる高度な身体表現技術の習得を目指します。単に振付を踊るだけでなく、楽曲やキャラクターに合わせた「動きの翻訳」ができる能力を養います。また、マイク歌唱やモーションキャプチャ、カメラ映りを意識したメディア別の対応力を身につけ、最終的には自ら振付・演出の一部を構築できるセルフディレクション能力を獲得し、唯一無二の表現者としての身体性を確立します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	ダンスしやすい服装、バレエシューズ、タオル 等				
授業外学習の方法	パワー・コンディショニング: 歌唱しながら踊り続けるためのスタミナ強化。/ アドバンスド・アイソレーション: より複雑で速いテンポへの対応。/ メンタル・ヴィジュアルイゼーション: 舞台袖からの導入や、キャラとしての立ち振る舞い。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  前 期	1	オリエンテーション	2年生の目標設定、プロのステージにおける「存在感」とは		
	2	応用体作り①	高強度の筋力トレーニングと瞬発力の向上		
	3	応用体作り②	アイソレーションを組み合わせた高度なコンビネーション		
	4	コンテンポラリー基礎①	感情を身体全体で表現するスローテンポな動き		
	5	コンテンポラリー基礎②	重心移動と床(フロアワーク)を使った劇的表現		
	6	シアタージャズ①	ミュージカルや舞台を想定した、指先・目線まで計算された踊り		
	7	シアタージャズ②	小道具(椅子・帽子等)を使ったパフォーマンスの基礎		
	8	キャラクターダンス①	「可愛い」「クール」「力強い」等、属性別の踊り分け		
	9	キャラクターダンス②	声優・VTuberライブを想定した、マイク持ちでの片手ダンス		
	10	歌唱×ダンス①	ブレスコントロールを維持しながらのサビ振付実践		
	11	歌唱×ダンス②	フルコーラスでのパフォーマンスと心拍数制御		
	12	ステージアクション基礎①	ダンス的な動きを取り入れた殺陣・戦闘フォームの美化		
	13	ステージアクション基礎②	複数人でのコンタクト・ワークと安全性・迫力の両立		
	14	上期総括リハーサル	各自が選択したジャンルでのブラッシュアップ		
	15	中間実技テスト	ソロ・パフォーマンス審査(技術点・表現点による評価)		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ダンス実習Ⅱ		指導担当者名	藤原悦子	
実務経験	有	ダンサー・ダンスインストラクターとして10年以上従事、ダンススタジオ経営。			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	プロの現場で即戦力となる高度な身体表現技術の習得を目指します。単に振付を踊るだけでなく、楽曲やキャラクターに合わせた「動きの翻訳」ができる能力を養います。また、マイク歌唱やモーションキャプチャ、カメラ映りを意識したメディア別の対応力を身につけ、最終的には自ら振付・演出の一部を構築できるセルフディレクション能力を獲得し、唯一無二の表現者としての身体性を確立します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	ダンスしやすい服装、バレエシューズ、タオル 等				
授業外学習の方法	パワー・コンディショニング: 歌唱しながら踊り続けるためのスタミナ強化。/ アドバンスド・アイソレーション: より複雑で速いテンポへの対応。/ メンタル・ヴィジュアルライゼーション: 舞台袖からの導入や、キャラとしての立ち振る舞い。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  後 期	16	下期ガイダンス	演出家・振付師の意図を汲み取る力、セルフ振付の導入		
	17	モーションキャプチャ演習①	3Dモデルを動かすための「大袈裟かつ精密な」動きの変換		
	18	モーションキャプチャ演習②	アバターの特性(尻尾・羽等)を活かしたポージングと踊り		
	19	カメラワークと画角意識①	MV撮影を想定した、レンズを通した時のベストな角度		
	20	カメラワークと画角意識②	抜かれる瞬間(ソロカット)のキメ顔とアピールの連動		
	21	振付構成論①	歌詞やメロディから動きを作る理論(クリエイトワーク)		
	22	振付構成論②	サビのキャッチーな動き(バズる振付)の考案・実践		
	23	セルフ振付ワーク①	30秒の楽曲に対する自由振付。テーマの設定		
	24	セルフ振付ワーク②	制作した振付の相互評価とディレクション体験		
	25	ステージ演出応用①	立ち位置(バミリ)への移動、照明を意識した動き		
	26	ステージ演出応用②	ライブでのファンサービス(煽り)を組み込んだダンス		
	27	修了公演制作①	チーム別の総合パフォーマンス企画(楽曲・衣装・構成)		
	28	修了公演制作②	チームリハーサル: 一体感と個性の調和		
	29	総合リハーサル	本番を想定した通し稽古。衣装・メイクを含めた確認		
30	修了パフォーマンス発表会	自作振付・構成を含むグループステージ披露			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習Ⅱ		指導担当者名	伊東 広	
実務経験	有	音響制作業、防音施工業に10年以上従事			
開講時期	通年		対象学科学年	声優科2年	
授業方法	講義:		演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	簡易編集ソフト(Audacity)からプロ仕様DAW(Cubase)へのステップアップを通じ、マルチトラック編集やアフレコ、MIDIを用いた音源制作といった高度な技術の習得を目指します。映像分野との連携を意識したデータ管理や、サンプラーを活用したリアルタイムな音出し、音楽理論に基づく歌唱ミキシングなど、多角的な音声コンテンツ制作能力を養います。最終的には、自らの声を素材として使いこなし、プロの現場でも通用する「音の職人」としての視点を備えた表現者を育成します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	パソコン、マイク、ミキサー、ケーブル、Cubase 等				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	2年次授業概要、機材位置確認。ケーブル巻き再確認。CubaseDL宿題		
	2	映像分野との連携基礎	マイク特性復習。映像制作(MV科等)に提供する音声データの心得		
	3	デジタル音声理論	データ種類・拡張子・WAVビット数・周波数の深い理解と規格統一		
	4	Audacity: 操作慣熟	録音・読み込み・並べ替え。映像に合わせた音圧調整とエフェクト習得		
	5	新ボイスサンプル始動	(VO科中心) 現在の実力に合わせた新ボイスサン構成案の作成		
	6	Audacity: 効果音制作	エフェクトを駆使した音加工。映像の動きに合わせたSE制作		
	7	Audacity: 総合編集	ナレーション・BGM・効果音を組み合わせた短編作品の完パケ		
	8	Cubase: 入門	ソフト起動、動作確認。録音・保存・プロジェクトデータの階層管理		
	9	Cubase: 基本操作	Audacityとの操作比較。プラグインエフェクトの使用法と書き出し		
	10	Cubase: 操作慣熟①	複数トラックの同時管理。パン(定位)とボリュームオートメーション		
	11	Cubase: 操作慣熟②	アフレコ実習: 映像出し機能を用いたアフレコ録音のワークフロー		
	12	アフレコ・ミキシング①	台本・映像に基づいた録音。MV科・VO科合同でのアフレコ挑戦		
	13	期末課題制作: 実戦	アフレコまたはナレーション原稿のミキシング作業(期末課題)		
	14	期末課題制作: 調整	EQ・コンプを用いた高度な整音。映像とのリップシンク確認		
	15	上期期末発表会	作品発表と評価。映像と音の融合による効果の検証		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習Ⅱ		指導担当者名	伊東 広	
実務経験	有	音響制作業、防音施工業に10年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	簡易編集ソフト(Audacity)からプロ仕様DAW(Cubase)へのステップアップを通じ、マルチトラック編集やアフレコ、MIDIを用いた音源制作といった高度な技術の習得を目指します。映像分野との連携を意識したデータ管理や、サンプラーを活用したリアルタイムな音出し、音楽理論に基づく歌唱ミキシングなど、多角的な音声コンテンツ制作能力を養います。最終的には、自らの声を素材として使いこなし、プロの現場でも通用する「音の職人」としての視点を備えた表現者を育成します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	パソコン、マイク、ミキサー、ケーブル、Cubase 等				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  後 期	16	下期ガイダンス	DTM(デスクトップミュージック)の世界。MIDIの基礎概念		
	17	Cubase: DTM体験	MIDI入力による演奏体験。正解音・不正解音等のSE自作		
	18	Cubase: サンプラー	サンプラートラック活用。自作SEの鍵盤アサインと「ボン出し」		
	19	Cubase: 音楽理論基礎	テンポと拍子の設定。音階(スケール)・コード・メロディの基本		
	20	Cubase: 打ち込み応用	音色変更、リズム(ドラム)の追加。簡単な譜面作成機能の体験		
	21	うたってみたⅡ: 研究	耳コピによるメロディなぞり。CV(キャラ声)イメージの具体化		
	22	うたってみたⅡ: リハーサル	歌唱リハーサルとガイド録音。キー変更や構成の最終確認		
	23	歌唱録音・オペ実習①	本録音開始。VO科の歌唱に対し、他学生が音響オペレーターを担当		
	24	歌唱録音・オペ実習②	複数テイクの録音。ハモリ、フェイク等のバリエーション収録		
	25	高度なミキシング①	ボーカルエディット。タイミング補正とピッチ感の調整		
	26	高度なミキシング②	楽器(オケ)と歌の周波数干渉の整理。空間演出(リバーブ等)		
	27	期末課題制作: 深化	下期総合課題: オリジナルSEを含む「歌ってみた」音源の完成		
	28	期末課題制作: 最終化	全体の音圧・音質を整えるマスタリング作業		
	29	下期期末発表会	完成音源の試聴・評価。音楽制作視点でのクリエイティブ確認		
30	年間総括・アーカイブ	プロジェクトデータの整理、ポートフォリオへの登録、機材清掃			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	吹き替え実習		指導担当者名	小椋有紗	
実務経験	有	声優、役者として6年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>実写映像に対する「吹き替え」の技術をトータルで習得します。アニメとは異なる、元俳優の芝居に寄り添った演技(アテレコ)を基礎に、コメディのテンポ、専門職ドラマの緊迫感、韓国時代劇の様式美など、ジャンルごとの対応力を養います。最終的には、翻訳原稿と映像を正確に捉え、プロの現場においてディレクターの指示に即座に応えられる吹き替えスキルの確立を目指します。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	モニター、録音機材、マイク、台本 等				
授業外学習の方法	ブレスコントロール(腹式呼吸トレーニング) / 発声基礎練習 / 『外郎売り』(滑舌・鼻濁音・無声化の確認)				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れ、注意事項。外画業界の知識、座学テスト、目標達成シート作成		
	2	実技①-1: 日常会話(1)	アテレコ慣熟: アニメと外画の演技の違い、生身の人間へのアプローチ		
	3	実技①-2: 日常会話(2)	会話の成立: 海外作品特有の表現(オーバーリアクション等)の理解		
	4	実技①-3: 日常会話(3)	演技の同調: 元俳優の表情・ブレスを自分の体に落とし込む訓練		
	5	実技①-4: 日常会話(4)	相手の意識: マイク前で「相手役」と呼吸を合わせる掛け合いの実践		
	6	実技②-1: コメディ(1)	ウィットの理解: 海外特有のジョークやウィットに富んだ会話の表現		
	7	実技②-2: コメディ(2)	テンポと間: コメディドラマ特有のスピーディーな展開への対応		
	8	実技②-3: コメディ(3)	表情のトレース: 画面上の役者の細かな表情変化を声に反映させる		
	9	実技②-4: コメディ(4)	長回しへの挑戦: 1カットの長いシーンを止めずに演じ切る集中力		
	10	前期試験対策(1)	試験台本の配布、配役決定、翻訳原稿のVチェック(映像確認)方法		
	11	前期試験対策(2)	原稿の「尺(時間)」と役者の口の動き(リップシンク)の精密調整		
	12	前期試験対策(3)	抜き稽古によるキャラクターの深掘りと、マイクワークの最終確認		
	13	前期期末テスト	課題台本(日常またはコメディ)からの抜粋による実技審査		
	14	前期試験の振り返り	録音音声の試聴、講師による個別講評、課題の明確化		
	15	上期総括・夏季課題	上期の到達度確認と、夏季休暇中の課題(海外ドラマ視聴・分析)配布		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	吹き替え実習		指導担当者名	小椋有紗	
実務経験	有	声優、役者として6年以上従事			
開講時期	通年		対象学科学年	声優科2年	
授業方法	講義:		演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	実写映像に対する「吹き替え」の技術をトータルで習得します。アニメとは異なる、元俳優の芝居に寄り添った演技(アテレコ)を基礎に、コメディのテンポ、専門職ドラマの緊迫感、韓国時代劇の様式美など、ジャンルごとの対応力を養います。最終的には、翻訳原稿と映像を正確に捉え、プロの現場においてディレクターの指示に即座に応えられる吹き替えスキルの確立を目指します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	モニター、録音機材、マイク、台本 等				
授業外学習の方法	ブレスコントロール(腹式呼吸トレーニング) / 発声基礎練習 / 『外郎売り』(滑舌・鼻濁音・無声化の確認)				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画  後期	16	後期オリエンテーション	後期の進め方、夏季課題提出。実技④-1:異世界アニメの世界観理解		
	17	実技④-2:異世界アニメ	キャラ付け:人間離れた役や特殊設定に負けない声のキャラクター立て		
	18	実技⑤-1:バトル(1)	息の演技:戦闘時の呼吸、攻撃時の力の込め方、リアクション		
	19	実技⑤-2:バトル(2)	必殺技とダメージ:限界状態のダメージボイス、決め台詞の発声		
	20	実技⑥:特殊環境	囁き声、回想、モノローグ等、マイクワークの応用技術		
	21	期末テスト準備(1)	キャストオーディション(AD):期末用台本配布、AD形式での選考		
	22	期末テスト準備(2)	オーディション結果に基づく配役決定、香盤表の確認		
	23	1話収録リハーサル(1)	収録作品の読解(本読み)、演出意図の共有		
	24	1話収録リハーサル(2)	A/パート・B/パート別の抜き稽古、技術的な課題の解消		
	25	後期期末テスト(AD)	模擬オーディション審査:自己PRと指定セリフによる最終評価		
	26	テストフィードバック	オーディション時の立ち振る舞いと演技に対するプロ視点での講評		
	27	1話収録直前稽古	全体の流れ(テンポ)の確認、ギャ(群衆シーン)の構成検討		
	28	後期期末テスト(収録)	実践・1話完パケ収録:3時間で作品1話を録り切る現場シミュレーション		
	29	収録作品の試聴会	完成した作品の確認。自身の演技と全体バランスの客観視		
30	年間総括・自己評価	1年間の到達度確認、目標達成シートの最終記入			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	配信実習Ⅱ		指導担当者名	穂月こはる	
実務経験	有	声優・役者として6年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	アバターを作り、配信プラットフォームで番組を作って配信できるようになる。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン(カメラ付き)、マイク、ヘッドホン、マウス、インターフェース、OBS、YouTube、VRoidスタジオ、3tene				
授業外学習の方法	OBSとYouTubeを繋いで非公開設定にして配信練習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	自己紹介、授業内容の説明など		
	2	VRoidダウンロード、作成	指定したアバターを作成して操作に慣れてもらう		
	3	VRoid作成続き、3teneダウンロード	VRoid作成が終わったら、エクスポートして、3teneを触る		
	4	OBSダウンロード	OBSと3teneとVRoidを使って動かしてみる		
	5	指定アバターでお話練習	指定アバターを動かしながら話す練習をする		
	6	VRoid作成1	自分のなりたい姿のVRoidをつくる		
	7	VRoid作成2	VRoidができれば、設定などを練る		
	8	VRoid作成3	エクスポートして、3teneで動かす		
	9	VRoidでお話練習2	練った設定通りに話す練習をする		
	10	YouTubeチャンネル作り 前準備	チャンネル用の素材を集めたり、作ったりする		
	11	YouTubeチャンネル作り2	チャンネル概要を決める、Googleアカウント作成する		
	12	YouTubeチャンネル作り3	YouTubeチャンネルを作る		
	13	YouTubeチャンネルとOBSの接続	接続する方法の学習、非公開で配信する仕方の学習		
	14	テスト	VRoidをOBSをつかってYouTubeで非公開配信する		
	15	ブラッシュアップ	テストを受けてのアドバイスや復習		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	配信実習Ⅱ		指導担当者名	穂月こはる	
実務経験	有	声優・役者として6年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	アバターを作り、配信プラットフォームで番組を作って配信できるようになる。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン(カメラ付き)、マイク、ヘッドホン、マウス、インターフェース、OBS、YouTube、VRoidスタジオ、3tene				
授業外学習の方法	OBSとYouTubeを繋いで非公開設定にして配信練習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	オリエンテーション	後期でやることの説明など		
	17	前期の復習	YouTubeとVRoidの使い方の復習		
	18	ネットリテラシーについて	簡単に配信で気をつけることを学習		
	19	仮番組の課題	指定のテーマで15分の仮番組を考案してもらう		
	20	仮番組の課題2	仮番組を発表してもらう		
	21	仮番組の課題3	ブラッシュアップし、非公開で配信してもらう		
	22	VRoidのモーション学習	モーションのショートカットキーを設定する		
	23	VRoidでお話練習3	練ったキャラクターでモーションを使って話す		
	24	番組考案1、ワンコメをダウンロードする	ワンコメの導入、番組の内容を考える		
	25	番組考案2	番組の内容を考える、台本作成する		
	26	番組考案3	フリーBGMや配信画面を探す		
	27	番組考案4	配信前の前のテストとして練習		
	28	番組考案5	練習 & 配信テストの配信投稿予約をする。		
	29	非公開で配信テスト	YouTubeで非公開設定にして配信テストする		
30	YouTubeで番組配信	自分一人で全て設定して配信する			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習Ⅱ			指導担当者名	穂月 こはる
実務経験	有	声優・役者として6年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>プロの表現者として自立し、即戦力として現場をリードできる能力の習得を目指します。1年次より高度な台本読解とキャラクター構築法を体得し、舞台演劇のみならず映像や声の演技にも対応できる柔軟な身体表現力を確立します。また、卒業公演の全工程を経験することで、演出・制作の意図を正確に汲み取り、自律的に動ける現場感覚を養います。最終的には、自らの表現に責任を持ち、プロフェッショナルとして社会へ踏み出すための確固たるアイデンティティと実力を完成させます。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	動きやすい服装、衣装、台本、筆記用具 等				
授業外学習の方法	各自復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	2年生の目標:プロ意識の確立と、自己の「売り」の特定		
	2	応用体づくり①	殺陣・アクションを想定した身体操作と瞬発カトレニング		
	3	応用体づくり②	長いセリフでも枯れない、安定した共鳴とスタミナの強化		
	4	アドバンスド滑舌	古典文学や難解な台本を用いた、高度なアーティキュレーション		
	5	台本分析・読解①	翻訳劇や古典劇を用いた、文脈の理解と時代背景の反映		
	6	台本分析・読解②	セリフの「サブテキスト(裏の意図)」を多角的に解釈する		
	7	実戦:オーディション演技	初見台本への対応、自己PRを含めた「選ばれる」立ち振る舞い		
	8	映像演技の基礎①	舞台と映像(カメラ)の演技の違い。最小限の動きでの表現		
	9	映像演技の基礎②	画角(サイズ)に合わせた表情・目線のコントロール		
	10	キャラクター構築①	職業、年齢、性格を超えた「別人の身体」を手に入れる		
	11	キャラクター構築②	VTuber・アニメにも通じる、デフォルメされた声と動きの融合		
	12	即興演劇(アドバンス)	予期せぬ展開に対応する瞬発力と、物語を牽引する力		
	13	外部講師ワークショップ	現場で活躍する演出家・俳優から直接指導を受ける		
	14	上期総括実習	卒業公演に向けた個人の技術レベルの最終チェック		
	15	中間実技審査	自由課題(または指定台本)による個人パフォーマンス発表		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	演技表現実習Ⅱ			指導担当者名	穂月 こはる
実務経験	有	声優・役者として6年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>プロの表現者として自立し、即戦力として現場をリードできる能力の習得を目指します。1年次より高度な台本読解とキャラクター構築法を体得し、舞台演劇のみならず映像や声の演技にも対応できる柔軟な身体表現力を確立します。また、卒業公演の全工程を経験することで、演出・制作の意図を正確に汲み取り、自律的に動ける現場感覚を養います。最終的には、自らの表現に責任を持ち、プロフェッショナルとして社会へ踏み出すための確固たるアイデンティティと実力を完成させます。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	動きやすい服装、衣装、台本、筆記用具 等				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	16	下期ガイダンス	卒業公演プロジェクト始動。作品選定の意図と配役発表		
	17	公演制作: 演出・演出助手	演出プランの理解。舞台上の絵作り(コンポジション)を学ぶ		
	18	公演制作: スタッフ管理	照明・音響・衣装・映像との打ち合わせと、指示出しの言語化		
	19	公演稽古①: プランニング	各自が持ち寄ったキャラクタープランの発表と擦り合わせ		
	20	公演稽古②: 立ち稽古	台本の核心に迫る。シーンごとのテンションとリズムの構築		
	21	公演稽古③: 抜き稽古	クライマックスシーンの徹底強化。爆発的な感情表現の習得		
	22	公演稽古④: 通し稽古	幕間の時間の使い方。公演全体のエネルギー管理の確認		
	23	公演制作: 宣伝・集客	SNS、チラシ、プロフィールシートを用いた自己宣伝の実践		
	24	公演稽古⑤: 総仕上げ	演出家の意図を120%体現し、さらに自分の色を乗せる		
	25	公演稽古⑥: 最終調整	細部のリアリティの追求。観客を作品の世界へ引き込む		
	26	舞台設営と場当たり	実際の舞台上での空間感覚の確認。セット・機材との連携		
	27	テクニカルリハーサル	複雑なきっかけ(音・光・映像)の完全同期確認		
	28	ドレスリハーサル	観客不在以外は本番と同一条件での総合リハーサル		
	29	卒業公演(本番)	2年間の集大成。業界関係者や観客の前での実演		
30	公演総括・ポートフォリオ作成	公演の反省と、自身の「実績」としての資料化			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ラジオ・MC実習Ⅱ		指導担当者名	ちば えみ	
実務経験	有	ラジオパーソナリティ、司会、ナレーターとして10年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	ラジオ制作の全工程(企画・取材・構成・台本・出演)を経験することで、マルチに活躍できる表現者の基礎能力を習得します。特に「ココラジ」での生放送実習を通じて、限られた時間内で情報を正確に伝え、かつエンターテインメントとして成立させる瞬発力と責任感を養います。最終的には、自らの言葉でリスナーと繋がり、番組を主体的に運営できるMCスキルの確立を目指します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	パソコン、マイク、ミキサー、台本、ケーブル類、BGM、SE、楽曲 等				
授業外学習の方法	各自復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	2年生の目標:プロのパーソナリティとしての自覚と独自性の確立		
	2	セルフプロデュース①	自分の「声」と「キャラクター」を活かした番組コンセプトの再構築		
	3	セルフプロデュース②	ターゲット層の特定と、ファンコミュニティを熱狂させるトーク術		
	4	アドバンスド・インタビュー	相手の本音を引き出す「深掘り」技術と、事前の徹底リサーチ法		
	5	構成案の高度化	15分・30分・60分の構成比率の習得。飽きさせない緩急の作り方		
	6	音声メディアの多角化	Podcast、Voicy、ラジオ配信アプリの特性理解と使い分け		
	7	動画配信実務①	映像付きラジオ(ニコ生・YouTube型)の見せ方。視線とリアクション		
	8	動画配信実務②	リアルタイム・テロップや画像出しを想定した進行管理		
	9	「バズる」コーナー企画	切り抜き動画やSNSで拡散されやすいキャッチーな企画立案		
	10	ナレーションと告知技術	番組内CM、提供クレジット、イベント告知のプロ技法		
	11	著作権と権利処理応用	楽曲使用、BGM、引用に関する最新の法的知識と実務		
	12	番組素材の制作	ジングル、BGM選定、OP/EDテーマのディレクション		
	13	プレ・プロダクション	下期のココラジ連動企画に向けた、独自番組のマスタープラン作成		
	14	上期振り返りと修正	制作した音声素材の合評会と、番組のブラッシュアップ		
	15	中間発表(期末試験)	「新番組ローンチ・プレゼン」:企画書とボイスサンプルの提出		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ラジオ・MC実習Ⅱ		指導担当者名	ちば えみ	
実務経験	有	ラジオパーソナリティ、司会、ナレーターとして10年以上従事			
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	ラジオ制作の全工程(企画・取材・構成・台本・出演)を経験することで、マルチに活躍できる表現者の基礎能力を習得します。特に「ココラジ」での生放送実習を通じて、限られた時間内で情報を正確に伝え、かつエンターテインメントとして成立させる瞬発力と責任感を養います。最終的には、自らの言葉でリスナーと繋がり、番組を主体的に運営できるMCスキルの確立を目指します。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。 上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。				
使用教材	パソコン、マイク、ミキサー、台本、ケーブル類、BGM、SE、楽曲 等				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画  後期	16	下期ガイダンス	ココラジでの冠番組プロジェクト開始。チーム編成と役割確定		
	17	広報戦略とSNS運用	番組公式SNSの運用、ハッシュタグ活用によるリスナー参加の促進		
	18	ココラジ実戦①:ブレ放送	15分枠での冠番組実践。基礎スキルの再確認と音量バランス調整		
	19	反省会とデータ分析	放送後の音声確認。リスナー層の分析と構成の見直し		
	20	ココラジ実戦②:深化	30分枠への拡大。ゲストを招いたコーナーの実践		
	21	反省会とフィードバック	ゲスト対応の評価、インタビューの質の改善		
	22	トラブル対応訓練	機材トラブル、不適切発言、尺の余りへのアドリブ対応シミュレーション		
	23	ココラジ実戦③:展開	外部取材やロケ音源を組み込んだ「外出し」企画の放送		
	24	反省会と改善	音素材のクオリティチェック。編集技術とトークの融合評価		
	25	番組イベントの連動	生放送と連動したリアルタイムアンケートや投票企画の実装		
	26	ココラジ実戦④:総仕上げ	これまでの集大成。自分たちの個性が最大限に光る冠番組の放送		
	27	番組のマネタイズ考案	案件紹介、グッズ販売、イベント開催など、収益化のアイデア検討		
	28	アーカイブと実績化	放送内容を編集し、ポートフォリオ用の実績素材を作成		
	29	最終リフレクション	1年間の放送活動の総括。成長した点と今後の課題の整理		
	30	修了発表会(期末試験)	「マイ・ベスト・プログラム」:最高の放送回と活動実績の発表		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	Vtuber実習Ⅱ		指導担当者名	ナナホシナナ	
実務経験	有	大学に4年間に在籍後、Vtuberとして5年間従事			
開講時期	通年		対象学科学年	声優科2年	
授業方法	講義:		演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>Vtuberを「個人の配信」から「持続可能なエンターテインメント事業」へと発展させる専門能力の習得を目指します。高度な配信・音響技術の活用はもちろん、データ分析に基づいた的確な改善、企業案件やグッズ展開における実務的なビジネススキルの獲得、さらには制作チームを動かすディレクション能力を養います。最終的には、変化の激しい業界でトレンドを先読みし、自らのIP価値を最大化させ、プロとして自立し続けるための「経営者視点」を確立します。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、配信機材 等				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	VTuberの定義、市場の現状、1年後の到達目標設定		
	2	IP(知的財産)の基礎知識	著作権、肖像権、商標権。アバターやイラストの権利関係		
	3	ネットリテラシー教育	個人情報特定の手口と防衛策。SNSでの情報発信リスク		
	4	VTuberコンプライアンス①	切り抜き動画、二次創作ガイドラインの作成と運用		
	5	VTuberコンプライアンス②	誹謗中傷への法的対応と、アンチ・荒らしへの対処法		
	6	メンタルヘルスマネジメント	エゴサーチとの付き合い方、孤独感や比較による焦燥の解消		
	7	キャラクターデザイン研究	自分の「強み」を視覚化する。色、モチーフ、シルエット戦略		
	8	デビュー準備:機材編	PCスペック、マイク、カメラ、トラッキングソフトの選定		
	9	配信環境の構築	OBS Studioの基本操作、オーバーレイ、BGM設定		
	10	「中の人」と「外の人」	RP(ロールプレイ)の深度設定と、一貫性のあるキャラ作り		
	11	デビュー戦略:初配信	期待感を高める待機画面、カウントダウン、自己紹介スライド		
	12	配信技術実習①:雑談	コメントを拾う技術、沈黙を怖がらないトークスキルの習得		
	13	配信技術実習②:ゲーム	プレイとトークの並行処理。権利確認済みのゲーム選び		
	14	上期総括・中間評価	ここまでの準備状況のセルフチェックとフィードバック		
	15	模擬初配信テスト	限定公開での「30分間初配信」実践と、相互レビュー		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	Vtuber実習Ⅱ		指導担当者名	ナナホシナナ	
実務経験	有	大学に4年間在籍後、Vtuberとして5年間従事			
開講時期	通年		対象学科学年	声優科2年	
授業方法	講義:		演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>Vtuberを「個人の配信」から「持続可能なエンターテインメント事業」へと発展させる専門能力の習得を目指します。高度な配信・音響技術の活用はもちろん、データ分析に基づいた的確な改善、企業案件やグッズ展開における実務的なビジネススキルの獲得、さらには制作チームを動かすディレクション能力を養います。最終的には、変化の激しい業界でトレンドを先読みし、自らのIP価値を最大化させ、プロとして自立し続けるための「経営者視点」を確立します。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、配信機材 等				
授業外学習の方法	各自復習				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授 業 計 画  後 期	16	下期ガイダンス	デビュー後のデータの読み方(アナリティクス入門)		
	17	配信企画の発想法	100回続くルーティン企画と、一発逆転の大型企画の作り方		
	18	数字を増やすノウハウ①	サムネイルデザインの心理学。クリック率を高める工夫		
	19	数字を増やすノウハウ②	YouTube/TikTokショート動画の活用。新規層へのリーチ		
	20	差別化戦略:独自性	「歌」「声劇」「専門知識」など、自分だけの武器の掛け合わせ		
	21	コラボレーション戦略	相手も自分も得をする企画。マナーと円滑な打ち合わせ術		
	22	コミュニティ・マネジメント	ファンとの距離感、モデレーター運用、メンバーシップ施策		
	23	プロとしてのビジネス意識	案件の受け方、企業との契約書チェック、確定申告の基礎		
	24	マルチプラットフォーム戦略	Twitch、X、FANBOXなど、各メディアの使い分け		
	25	危機管理シミュレーション	万が一の炎上時の対応フロー、謝罪文の書き方、休止判断		
	26	最新トレンド分析	メタバース、AI、VR。次世代のVtuberに求められる適応力		
	27	未来計画:継続の技術	3年後の自分のための活動バランス設定(学業・仕事との両立)		
	28	総合演習①:企画立案	オリジナル企画の構成台本作成とビジュアル素材準備		
	29	総合演習②:最終調整	リハーサル。トラブル発生時のアドリブ対応訓練		
30	修了発表	「渾身の1時間配信企画」の実践と活動ロードマップの発表			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	声優総合実習Ⅱ			指導担当者名	常勤
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>学生の枠を超え、自律した「プロフェッショナルな表現者」として社会へ踏み出す準備を完遂することです。事務所所属オーディションを突破できる高度なセルフプロデュース能力と実技力を完成させるとともに、契約・税務・SNS管理といった実務的な知識を習得します。最終的には、どのような現場においても即戦力として信頼され、長く業界で貢献し続けるための確固たるアイデンティティとサバイバル戦略を獲得します。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、配信機材 等				
授業外学習の方法	各自復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	2年次のゴール:所属・デビューに向けた逆算スケジュールの策定		
	2	徹底プロダクション研究	各事務所の特色、新人採用傾向の分析。志望先の絞り込み		
	3	プロフィールシート刷新	1年次の活動実績を加味した「最強の宣材書類」へのアップデート		
	4	宣材写真撮影Ⅱ:差別化	前年より一歩踏み込んだ「自分のキャラ」を強調する写真撮影		
	5	ボイスサンプル連動戦略	シートの印象とボイスサンプルの「乖離」を無くすトータル演出		
	6	業界マナーと現場対応術	収録スタジオでの振る舞い、台本チェック、香盤表の読み方		
	7	企業案件・実戦演習①	実際の外注案件を想定した課題。短納期でのハイクオリティ制作		
	8	企業案件・実戦演習②	ディレクターからの難解な要求(リテイク)への即時対応訓練		
	9	ナレーション実戦①	報道、バラエティ、CM。ジャンル別の読み分けと安定感の追求		
	10	ナレーション実戦②	映像を見ながらの秒数調整と、言葉の粒立ちの極限強化		
	11	所属オーディション対策①	事務所別・傾向別の筆記・実技・面接対策の徹底シミュレーション		
	12	所属オーディション対策②	30秒・1分自己PRの「決定版」完成。フリートークの瞬発力強化		
	13	セルフマネジメント講習	健康管理、喉のケア、スケジュール管理、SNSでの信頼構築		
	14	上期総括実習	本番さながらの「所内模擬オーディション」の実施		
	15	期末試験	所属希望先への提出書類チェックと、最終的な活動方針の確定		
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	声優総合実習Ⅱ		指導担当者名	常勤	
実務経験	無				
開講時期	通年	対象学科学年	声優科2年		
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	90時間	単位数	3単位	週時間数	3時間
学習到達目標	<p>学生の枠を超え、自律した「プロフェッショナルな表現者」として社会へ踏み出す準備を完遂することです。事務所所属オーディションを突破できる高度なセルフプロデュース能力と実技力を完成させるとともに、契約・税務・SNS管理といった実務的な知識を習得します。最終的には、どのような現場においても即戦力として信頼され、長く業界で貢献し続けるための確固たるアイデンティティとサバイバル戦略を獲得します。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。          上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、配信機材 等				
授業外学習の方法	各自復習				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業計画 後期	16	下期ガイダンス	業界へ出る準備。プロとしての責任と社会人マナーの再確認		
	17	実戦: アフレコ現場演習	複数人でのマイクワーク。呼吸を合わせる技術と、周囲への配慮		
	18	メディアミックス対応力	イベント登壇、生配信、ラジオ対応。演者としてのトータルスキル		
	19	VTuber・ストリーマー戦略	アバターを用いた活動のブランド管理と、IPとしての自分を育てる術		
	20	著作権とリーガルチェック	契約書の読み方、ギャランティ交渉、権利侵害への対処法		
	21	確定申告とビジネス実務	フリーランス・個人事業主としての税金、保険、収支管理の基礎		
	22	メンタルタフネス講習	競争社会での精神的自立、スランプ脱出法、モチベーション維持		
	23	外部講師特別授業①	現役マネージャーによる「選ぶ側」の本音トークと模擬審査		
	24	外部講師特別授業②	第一線で活躍する卒業生やプロによる、現場のリアルな心得		
	25	模擬オーディション最終①	役者としての「唯一無二」を提示できているかの最終チェック		
	26	模擬オーディション最終②	想定外の質問や無茶振りへのアドリブ対応能力の完成		
	27	活動ポートフォリオ完成	在学中の全実績をまとめた、業界への「最後の手紙」の作成		
	28	卒業制作: 実力披露会	自身の最高傑作(ボイス、映像、演技)をクラス・教員へ発表		
29	キャリアパス・最終面談	卒業後の活動拠点の確認。卒業生ネットワークの登録			
30	期末試験	2年間の歩みの振り返り。プロの表現者としての門出の儀			
履修上の留意点					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	卒業制作実習		指導担当者名	担任
実務経験	無			
開講時期	後期	対象学科学年	全学科 2年生	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	180時間	単位数	6単位	週時間数
学習到達目標	・2年間の集大成として学んだこと活かしデジタルコンテンツを制作し、プレゼンテーションをする。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としての作品、レポートの提出状況などを点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)、の4段階とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p> <p>上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	デジタルコンテンツ制作に必要な物を各自用意。			
授業外学習の方法	制作にあたり、事前の企画・計画をそれぞれ複数の先生方と行い、チェックをもらう事			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	作品制作①	事前に準備していた企画・計画に沿ってそれぞれ制作にあたる	
	2	作品制作②	個別添削を行いながら制作を進めていく	
	3	作品制作③	中間発表	
	4	学科内プレゼンテーション	学科内でプレゼンテーションを実施	
	5	発表を受けての修正と展示準備	オンライン展示およびオンサイト展示を実施	
	6	卒業・修了制作展	展示終了後は、アーカイブ化し、デジタル保存をする	
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
履修上の留意点				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				